

患者さんパンフレット

四国がんセンター
泌尿器科



私たち医療スタッフは

- I. 治療に対する不安を軽減し、最良の状態での治療が受けられるようにお手伝いします

- II. 治療後の苦痛や副作用を最小限にし、順調に回復され安心して退院を迎えられるようにお手伝いします



放射性リガンド療法（プルヴィクト） を受けられる方へ

さま

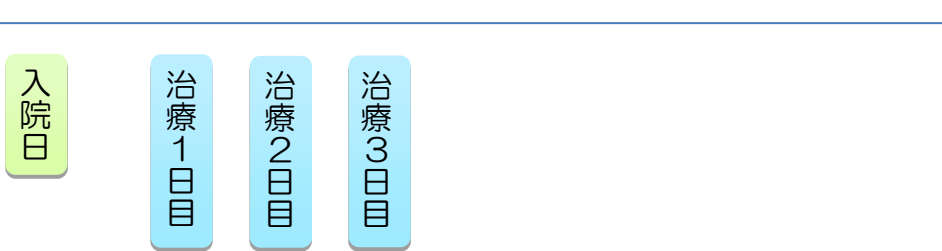
主治医

受け持ち看護師

2026年1月14日 作成
2026年5月28日 改訂

プルヴィクトの治療スケジュール

1コース（42日間）



プルヴィクト



約30分の点滴です

- 6週間に1回のペースで点滴を行い、計6回の投与を予定しています
- 全体の治療期間は約8か月間になります

- 点滴をしたときに、過敏反応が起こることがあります
過敏症状がでたら、早めに点滴を止めることが大切です
- 息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪いときは
我慢をしないで、すぐに医療スタッフにお知らせください



治療前の歯科受診について

- ◆ 治療時に起こる口腔内のトラブルを予防し、治療が円滑に進むように
治療開始前の歯科診察を行っています
- ◆ 通常、初回治療前に外来で受診します
- ◆ 治療前の歯科受診では、以下を行います
 - レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
 - 歯ブラシだけではとれない細菌の除去
 - 適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導
- ◆ 口腔内は清潔にするよう心がけましょう
- ◆ 治療薬の影響で唾液の分泌が低下し、口腔内が乾燥します
そのため、治療開始後も定期的な歯科受診をすすめています

口腔内はとても細菌の多い場所です
治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります
特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口腔内を
きれいにし細菌をできるだけ減らしておくことが有効です



治療後に放出される放射線について

- ◆ プルヴィクト投与後は、体から放射線（ベータ線、ガンマ線）を放出します
ベータ線は飛距離が短く、ほとんど体の外へ出ません
ガンマ線はベータ線よりも届く距離が長く、体の外に出てしまいます
そのため、周囲の方にも届く可能性があります
- ◆ 放射性物質の汚染を避けるため、入院時に持ち込む荷物は最小限にしましょう
 - ・ 携帯電話の持ち込みはできません
 - ・ 歯ブラシ、くしなどの洗面・衛生用品などは使い捨てのものを用意してください
 - ・ 髭剃りは入院前に済ませておきましょう
 - ・ 入院時に着用していた衣類、靴、バッグ等の私物は、ビニール袋に入れて病室内で保管します
 - ・ **持ち込んだ荷物に放射性物質がついた場合、数か月持ち帰ることができません**
- ◆ プルヴィクト投与後は、定期的に放射線量を測定します
体から放出される放射線量が基準値をクリアするまでは、個室の入室が必要です
(治療上の理由により、個室対応が必要な場合は個室料金はいただきません)
 - ・ 許可が出るまで、病室から出ることはできません
 - ・ 身の回りのことは、ご自身で行うようにしてください
 - ・ 薬や食事の受け渡しは、病室内の所定のテーブルで行います
 - ・ シャワーはできません
 - ・ **面会はできません**
- ◆ 排尿を促すことで、前立腺がん細胞内に取り込まれなかった薬剤が排出されやすくなります
そのため、治療後は1日1500 ml を目標に、水分をとりましょう
 - ・ 膀胱に尿が溜まると薬が腎臓や膀胱を刺激し炎症を起こします
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行ってください
 - ・ 排尿時に痛みや残尿感がある場合は、ナースコールで看護師にお知らせください
 - ・ 排尿の仕方、処理方法については、「治療後の尿・便の取り扱いについて」ページ参照
 - ・ 普段からおむつや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
- ◆ プルヴィクト投与後7日間は、周囲の方への影響を最小限に抑えるため、適切な距離を保って過ごしましょう
「プルヴィクト静注による治療を受ける患者さんにご家族の方へ」冊子参照

治療当日までに準備していただきたいこと

- 他の病院で処方され服用している薬がある方は、入院時に必ずお持ちください（入院中は他の病院の受診ができないため、余裕をもってお持ちください）
- **お薬手帳をお持ちの方は、入院時に必ずお持ちください**
- サプリメントを飲んでいる方は必ずお申し出ください
- 入院するまでに爪は短く切っておいてください
- 入院中の買い物代行はいたしかねます

＜以下のものは病院で貸し出します＞

- 衣類（パジャマタイプ）
 - ティッシュペーパー
- 「CSセットのご案内」を参考にしてください

＜以下のものはご自身で準備します＞

- 500ml ペットボトル 6～7本（水もしくはお茶）
 - スリッパ（病室用） 1足
 - フェイスタオル 1枚
 - おむつ（はくタイプ）または下着 2枚
 - 歯ブラシ・コップ、ペーパータオル、
食事用具（箸・スプーンなど）
 - 手袋 20組 ・ボールペン 1本
 - 所持品が入る大きさのビニール袋（45L～70L）1枚
 - 入院時に着用していた衣類が入る大きさのビニール袋 1枚
 - 入院時に履いていた靴が入る大きさのビニール袋 1枚
 - 尿取りパッドが必要な方はご準備ください
 - **2回目以降・・・ルテチウム核医学治療患者情報カード**
- 「PSMAセット」として院内で
購入することも
できます

- ※治療後に使用した私物や靴類は退院時に持ち帰ることができない場合があります
ご自身で準備するものは、使い捨てまたは捨ててもよいものにしてください
- ※病室への貴重品の持ち込みはご遠慮ください（持ち帰れない可能性があります）
- ※同意書がお手元にある場合は忘れずにお持ちください

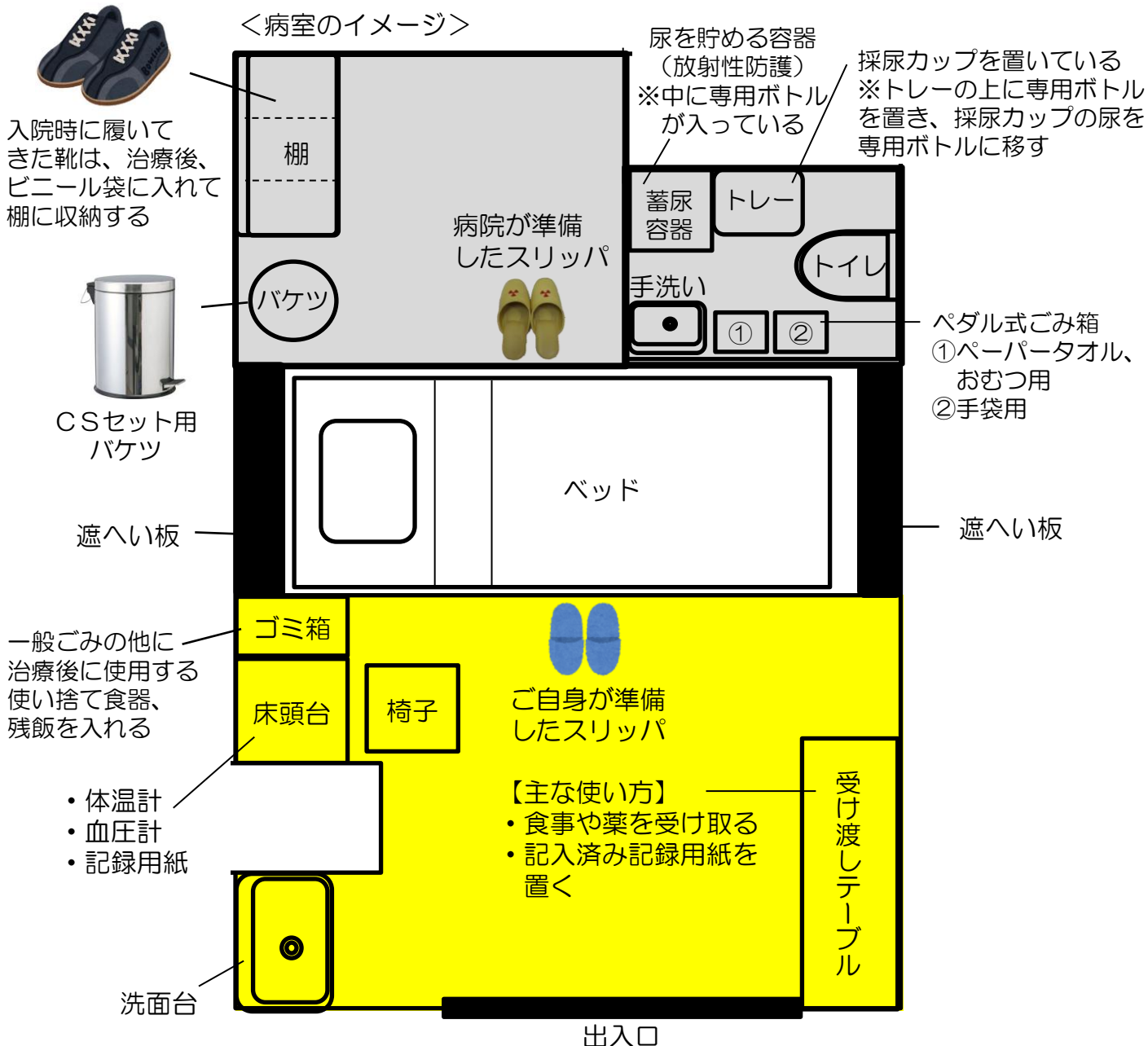
医療品ショップ くろ～ば～

場所 2階 中央処置室前
営業時間 8：30～17：00
定休日 土・日・祝日・年末年始
電話 (089) 999-1129



入院中の生活の注意点

- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆病室内は、被ばく予防のために遮へい（遮るものを使うこと）をします
黄色の部分は、ご自身が準備したスリッパを履き、グレー部分は、病院が準備したスリッパに履き替えて過ごします
- ◆CSセットをご利用の方は、入院時に2セットお渡しします
治療前に使用したパジャマは、看護師に渡しましょう
治療後に使用したパジャマは、退院時にベッドの上に広げてた状態にしてください
血液などの体液、排泄物、嘔吐物が付着した場合は『CSセット用バケツ』に入れましょう



治療後の尿・便の取り扱いについて

◆プルヴィクト投与後から、尿はトイレに流せません

蓄尿（尿をためること）が必要になります

手袋を装着後、トイレに座って尿を採り、蓄尿容器に入れましょう

＜排尿・蓄尿の方法＞

①病院が準備したスリッパに履き替えます

②手袋をつけます

③蓄尿容器から専用ボトルを取り出し、トレーに置きます

専用ボトルのフタを開けてトレーに置きます

④採尿カップを手に取り、便座に座って、尿を採ります

⑤トレーの上で、採尿カップ内の尿を専用ボトルに移します

⑥採尿カップをトレーに置いて、専用ボトルのフタを閉めます

⑦専用ボトルを蓄尿容器に戻します

⑧手袋を外し、トイレ内に設置しているペダル式ごみ箱に捨てます

⑨石けんでしっかり手を洗います（「正しい手の洗い方」ページ参照）

⑩ペーパータオルで手を拭きます



おむつや尿とりパッドを交換するときも必ず手袋をしましょう

使用済みのおむつや尿とりパッドは、トイレ内のペダル式ごみ箱に捨てます

◆尿が床にこぼれたり、尿で衣類が汚れたりした場合は、その場から離れず、トイレ内のナースコールを押してお知らせください

＜排便の方法＞

排便は、トイレに流すことができます

排便後は、フタをして水を2回流しましょう



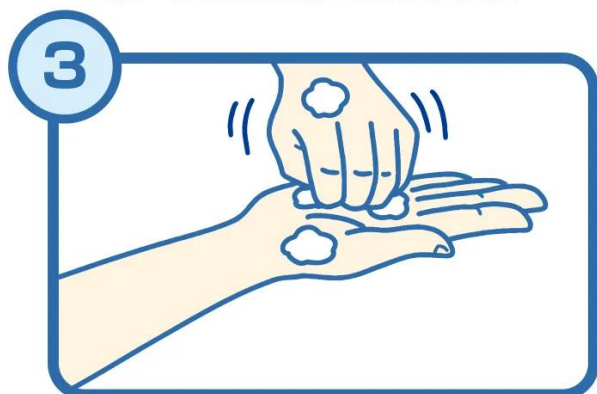
正しい手の洗い方



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのぼすようにこすります。



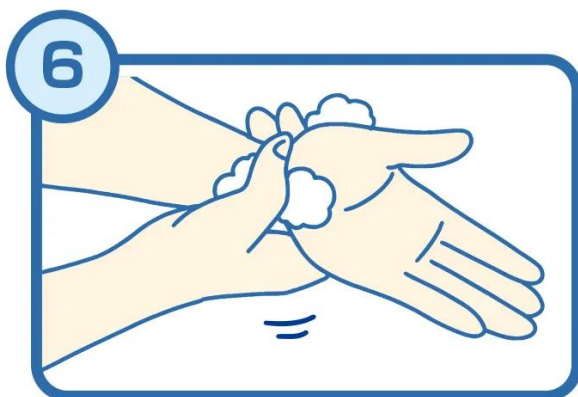
指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗いします。



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

出典：政府広報オンライン

インフルエンザの感染を防ぐポイント「手洗い」「マスク着用」「咳（せき）エチケット」

食事について

【栄養プラン】

入院後の食事は

常食 ・ 粥食 ・ 特別治療食（

）

を提供いたします

入院時に行われる栄養指導の際に再度状況を確認し、調整します

入院までに体調の変化があり、食べやすいものが変化していたらお知らせください

入院2日目の昼食からティスポ（使い捨て）食器に変わります

ティスポ（使い捨て）食器のときはお茶が付きません

入院後は、日々の体の変化や治療方針にあわせて進めていきます

入院中に食事でお悩みの際は、看護師にお声がけください

【当院の食事紹介】

《普通食》

☆常食 一般的な食事です

☆粥食 やわらかい、消化のよい食事です

*既定の範囲内であれば、主食量の増減や変更が可能です

《特別食治療食》

☆治療や病状に合わせた調整が必要な食事です

*エネルギーコントロール食、タンパク質制限食、脂肪制限食など

《副作用対策食》

☆食欲不振、嘔気・嘔吐がある場合 … 坊っちゃん食

*エネルギーコントロール食、タンパク質制限食、脂肪制限食など

☆その他セットメニュー

①パンセット



②フルーツセット+主食付き



③フルーツセット



④汁物おにぎりセット



⑤おじやセット



⑥麺セット



【治療中の食事の考え方】

- ・バランスに配慮した食事（主食+主菜+野菜）を心がけましょう
基本的には食べてはいけないものはありません
- ・副作用症状により普段より食事が食べられない場合は、食べられるものを少しずつ食べることで、症状が落ち着いてからは体の回復をはかるためバランスに配慮した食事をしましょう
(ただし、糖尿病や高血圧、腎臓病、肝臓病などの食事療法が必要な疾患がある場合は、主治医と栄養士が相談し、食事内容を変更します)

【副作用の症状と食事の対応について】

1) 腎機能障害

尿量の変化（尿量が少なくなる、ほとんど尿が出ない、一時的に尿量が多くなるなど）
プルヴィクトの投与後は、十分な水分補給を行いましょう
水もしくはお茶、1500mlが目安です

1500 ml/日



2) 疲労、食欲減退

食べたいときや食べられそうなときに食べるようにする

3) 悪心(吐き気)・嘔吐

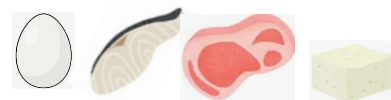
吐き気、胃がむかむかする、胸やけ、嘔吐など

- ・食べたいときや食べられそうなときに食べるようにする
- ・においの強いものは周りに置かないようにする
- ・少量ずつ、数回に分けて食べる



1日の目安

卵1個+魚1切+肉1切れ+豆腐半丁
(80g程度)



4) 赤血球の減少による貧血

骨髄の働きが低下して、赤血球が減少すると貧血になります
栄養状態が悪いと骨髄の回復が遅くなります

- ・バランスよく食べる
- ・赤血球やヘモグロビンの材料となるたんぱく質をいろいろな種類を取り混ぜて食べる

5) 下痢、便秘

下痢

腹痛、水のような便・泥状のゆるい便が出るなど

- ・水分補給 ⇒ 脱水に注意
(水・お茶以外にスポーツドリンクなど)
- ・消化のよい食事
(食物繊維や油の多い料理、生魚、刺激物禁)
- ・状況によりお薬で調整

便秘

便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐、お腹が張る、腹痛など

- ・水分補給
- ・食物繊維(野菜・海草・きのこ など)
⇒腸の動きが低下している場合はとり過ぎ注意
- ・乳製品

排便について

普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

排便回数が4回以上増えたとき、下記の表の6（泥状便）～7（水様便）の排便が続くとき、周期的に腹痛があるときはすぐに医療スタッフに伝えましょう

3日以上排便がない、いきまないと便が出ない、便は毎日出ているがすっきりしない腹部膨満感などの症状があるときは、排便回数や性状によって緩下剤を使用します

※排便の状況や下痢・便秘の辛さは人によって違います

※排便のコントロールが難しい場合は看護師と解決方法を相談しましょう

便の性状について（ブリストルスケール）

ブリストルスケールは、便のタイプ（硬さ）を7種類に分類した世界共通の尺度です。自分の便のタイプを知り、排便調整の参考にしましょう

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 兔糞状の便
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の小片便 泥状の便
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように患者さんご自身の目標と医療スタッフの目標をあげています

入院は3日間の予定です
治療後の状態によって入院期間が数日延びる場合があります

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては予定どおりにすまないこともあります。その都度対応していきますのでご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます

【効果判定検査について】

3コース目および6コース目の治療後に、効果判定の検査を行います

検査は治療翌日（退院日）に、プルヴィクトの退出基準を満たしたことを確認後、15時～16時頃に開始します

検査は、プルヴィクトの性質を利用して行います

退院予定は通常15時頃ですが、3コース目および6コース目は検査のため、退院時間が1～2時間程度遅れます（検査の状況により前後することがあります）

検査開始時間を看護師に確認の上、退院準備が整いましたら、荷物を持ってH受付へお越しください



今日の目標

- ・入院生活や治療について医療スタッフの説明が理解できる
- ・わからないことは質問することができる

<時間>

<予定>

11:00	入院	<p>【入院後に以下のことを予定しています】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明（テレビの病院案内も参考にしてください） ・検温、血圧測定、身体測定
12:00	昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師と血圧測定方法と記録用紙の記入について確認します ・入院前の生活状況や身体状況の聞き取り ・レンタルしたパジャマに着替え、ご自身の衣類はビニール袋に入れてください <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p>治療の流れや注意事項、副作用や対策について説明します 過敏症、点滴部位の痛み・血管痛について 「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照 「プルヴィクト静注による治療を受ける患者さんご家族の方へ」冊子参照</p> </div> <p><お薬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の病院で処方された薬は、一度お預かりします ・医師に確認後、続けるか、中止するかをお伝えします <p><食事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください ・基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります
18:00	夕食	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます ・初回治療のときは、栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります ・2回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、お知らせください
21:30	消灯	<p><睡眠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・眠れないときは安定剤を服用することができます

薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
 プルヴィクトの注意点について詳しく記載された冊子をお渡しします



医療スタッフの目標

- ・安心して入院生活が送れるように支援します
- ・治療の準備がすすめられるように支援します





治療前の目標

- ・ 予定どおりに治療を受けることができる

<時間>

<予定>

6:00 起床、体重測定

7:00 検温、血圧測定
ご自身で測定し、記録用紙に記入してください

7:30 朝食

点滴前に着替えと片付けをしてください

- ・ 治療時に着用していた下着は、退院時に持ち帰ることができません
おむつを着用してください
- ・ 新しいパジャマに交換します
使用後のパジャマは、看護師にお渡してください
- ・ 入院時に着用していた衣類以外の私物は、すべてビニール袋に入れます
衣類と私物が入ったビニール袋は、それぞれ病室内の棚で保管します
放射線量が基準値以下になるまで一切開封できません
- ・ 私物も含めすべての荷物は、退院時に放射線量を測定します
線量によっては、私物を数か月持ち帰ることはできません
- ・ 治療後に履き替えた靴を入れるビニール袋を受け渡しテーブルの上に
用意します

治療30分
~40分前

トイレに行きます
吐き気止めを飲みます
点滴を始めます
看護師と一緒に2階H受付まで歩いて行きます



<2回目以降の治療の場合>

ルテチウム核医学治療患者情報カードを治療室に持っていきます

医療スタッフの目標

- ・ 予定どおりに治療が受けられるように支援します





治療中の目標

- 安全に治療を受けることができる
- 副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる

<時間>

<予定>

10:00

治療開始前にトイレに行き、外来スタッフと一緒に治療室に移動します
準備ができれば、治療薬を投与します（約30分）
※状況により時間が変更する場合があります
変更する場合は、病棟スタッフからお伝えします



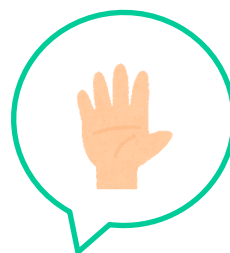
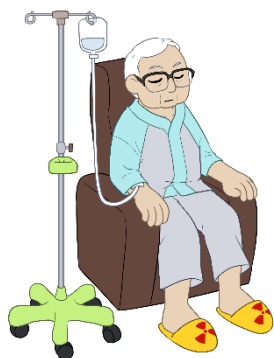
- 針の入っているところが赤くなった、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください
- 息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪い、体がかゆい、咳が出るときは、我慢をしないでお知らせください

治療終了後

点滴の針を抜きます
止血ができれば、指定されたエレベーターを使って病室に戻ります
移動時はできるだけ周囲のものに触れないようにしてください

<治療中のイメージ>

治療は座った状態で行います
治療開始～終了までは、治療室内は一人になります
スタッフは隣室で待機しています



何かあれば、手を挙げてお知らせください

医療スタッフの目標

- 副作用症状の早期発見に努めます
- 血管外漏出予防に努めます





治療後の目標

- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる
- ・正しい方法で尿の取り扱いができる

放射線量が基準値以下になるまで、医療スタッフとの接触は最小限になります
帰宅後は以下のことに注意しながら過ごしてください

活動

- ・靴からスリッパに履き替えて、靴はビニール袋に入れ、病室の棚に入れてください
- ・放射線量が基準値 $16\mu\text{Sv}$ （マイクロシーベルト）以下になるまで、病室内から出ることはできません

尿の管理

- ・治療後の尿は、特別な方法で処理する必要があります
「治療後の尿・便の取り扱いについて」ページ参照

検温、血圧測定、状態観察

- ・12時、18時、21時にご自身で測定しましょう

食事・薬

- ・食事は、看護師が受け渡しテーブルまで運びます
食器や食事用トレーは使い捨てになりますので、食後は全てごみ箱に捨ててください
- ・プルヴィクトを早く排出するため、1日1500mlを目安に水分をとりましょう
- ・薬は食事と一緒に、看護師がお配りします

副作用

- ・吐き気や嘔吐、食欲不振、下痢・便秘など、気になる症状がある場合は我慢せず
ナースコールで看護師にお知らせください

記録用紙

- ・測定結果、症状の有無、食事摂取量は記録用紙に記入してください
記入後の記録用紙は病室内の受け渡しテーブルの上に置いてください
（看護師が訪室した際に、記録用紙を確認します）

ご不明な点や確認したいことがあれば、記録用紙にメモをしてください
急ぎの場合は、ナースコールでお知らせください



医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・退院できる
- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床

尿は専用ボトルにためましょう
1日1500mlを目安に水分をとりましょう

7:00

検温、血圧測定

ご自身で測定し、記録用紙に記入してください

7:30

朝食

吐き気止めを飲みます

午前の測定で放射線量が基準値以下であれば
本日15時に退院できます
退院までは、病室内でお過ごしください

11:30頃

放射線量測定（身体）

基準値を超えていれば、退院は翌日以降に延期します

退院延期の場合、12時、18時に検温、血圧測定をしてください

12:00

検温、血圧測定

ご自身で測定し、記録用紙に記入してください

副作用や対策について説明します

吐き気・嘔吐、便秘、下痢、神経障害、味覚障害・食欲不振、口内炎
骨髄毒性、暴露対策について

「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

「プルヴィクト静注による治療を受ける患者さんご家族の方へ」
冊子参照

退院後の日常生活の注意点について看護師より説明があります

15:00

放射線量測定（私物）

お預かりしている薬や退院処方がある場合は、お渡しします

次回外来予約票、入院予定票をお渡しします

*泌尿器科と同日に歯科も予約されることがあります

*外来受診時に検査がある場合は、事前に医師から説明があります

ルテチウム核医学治療患者情報カードをお渡しします

「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので2階でお支払ください
忘れ物がないようご確認ください

16:00頃

放射線量測定（午前の放射線量が基準値を超えていた場合）

基準値以下であれば、翌日退院できます

医療スタッフの目標

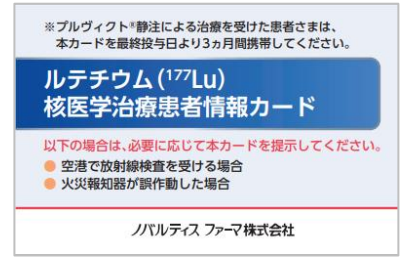
- ・退院後の日常生活に不安が残らないように支援します



退院後の日常生活について

●ルテチウム核医学治療患者情報カード（診療証明書）について

治療開始から終了後3か月間は、放射線検査が行われる空港などを利用する際には、診療証明書を携帯しましょう
治療の影響により、空港のセキュリティチェックや病院・デパートなどの火災報知器などが反応することがあります
プルヴィクトによる治療を目的に入院する際は、このカードを毎回必ず持ってきてください



●食事

水分摂取は1日1500mlを目標にしましょう
無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけ、少量ずつ可能な範囲で食べるとよいでしょう
食事ごとに吐いてしまう場合は、1～2食、食事は控えてみましょう
この場合も水分はできるだけとるようにしましょう



●排泄

治療後3日間は排尿は座って行いましょう
排尿後はフタを閉め、**2回**流しましょう
毎日排便があるように、軽い運動や水分を多めにとりましょう
便秘気味の方は、緩下剤（便をゆるくする薬・押し出す薬）で排便コントロールをしましょう
下痢のときは白湯やスポーツ飲料などをとりましょう
水分を控えると脱水症状を起こすことがあります
退院までに医療スタッフと対処方法について相談しておきましょう
*退院後、便秘が続き排ガスがない、下痢や吐き気、腹痛がある場合はかかりつけ医
または、四国がんセンターの医師の診察を受けるようにしましょう



フタをして水を
2回流しましょう

●活動

治療後7日間は以下のことに注意しましょう

- ・ご家族とは少なくとも1m、長く接するときは2m以上離れてお過ごしください
特に小児や妊婦との接触は最小限にしてください
- ・公共の場（ショッピングセンター、映画館、レストラン、スポーツ観戦など）への外出はできるだけ控えましょう
- ・公共交通機関を利用する際は、他の人との距離を1m以上あけ、長い時間（6時間）滞在することは避けましょう

8日目以降は、無理をしない程度で体を動かしましょう
白血球が下がっているときは、なるべく人混みは避けましょう
外出時はマスクを着用し、帰宅時には、手洗いやうがいをしましょう



●清潔

入浴やシャワー浴をして体を清潔にしておきましょう
発熱時やだるさが強い場合は、入浴を控えタオルなどで拭くようにしましょう
歯磨き・うがいをして、口の中を清潔に保ちましょう

入浴は、他の家族が入浴した後、最後に入浴してください
浴槽は洗剤を用いてブラシなどで**しっかり洗って**ください

洗濯は、他の家族の衣類とは別にしましょう

特に血液や尿、嘔吐物がついたシーツや下着は十分に**予洗い**を行いましょう

血液などの体液、排泄物、嘔吐物が

- ①皮膚についたときは、すぐに**石けんで洗い**、十分にすすぎましょう
- ②床にこぼれたときは、**トイレトペーパー**できれいに拭き取り**トイレに流して**ましよう
- ③付着したものに触る場合は、**使い捨て手袋**を着用しましょう

●仕事

社会復帰（特に重労働：荷物運びや長時間の立ち仕事、長期の旅行、スポーツ）などは主治医と相談してください

これから先、安心して働き続けるためには
体の状態に合わせた休み方や働き方が必要に
なることもあります

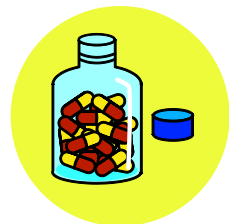
病院では、患者さんの「働きたい！」を
サポートしています

ご相談は、**がん相談支援センター**へお問い合わせください



●お薬

薬の処方がある方は、医師の指示どおりに服用してください
他の病院の薬を服用する場合は、医師に相談してください



●その他

虫歯、歯肉炎、義歯などの口腔内の不具合はないか確認しましょう

治療開始後、歯科治療が必要なときは歯科受診について、医師にご相談ください

インフルエンザ等の予防接種を希望される場合は、医師にご相談ください

ご家族の方、周囲の方へ

ご家族や周囲の方が、放射線の被ばくと汚染について正しく理解し、被ばくを最小限に抑えることが大切です

退院後も患者さんの体から放射線が放出されています
ご家族や周囲の方も被ばくする可能性があります、被ばくを最小限に抑えるためには、投与後7日間は日常生活での注意が必要です
患者さんと過ごす際は、以下の点に注意してください

●投与後3日間

- ・入浴の際は、患者さんよりも先に入ってください
- ・他のご家族の衣類と患者さんの衣類は分けて洗濯してください
- ・患者さんの排泄物、血液などの体液、嘔吐物が
 - ①皮膚についたときは、すぐに石けんで洗い、十分にすすぎましょう
 - ②床にこぼれたときは、トイレットペーパーできれいに拭き取りトイレに流しましょう
 - ③付着したものに触る場合は、使い捨て手袋を着用しましょう

●投与後7日間

- ・患者さんとは少なくとも1m、長く接するときは2m以上離れてお過ごしください
特に患者さんと小児や妊婦の接触は最小限にしてください
- ・性行為は禁止です
- ・患者さんと同じベッドで就寝しないでください
可能であれば別室で就寝することが望ましいですが、患者さんと同室で就寝する場合は、2メートル以上離れてください

●投与後14週間

- ・投与後14週間は避妊してください





- ◆ 37.5℃を超える発熱が続くとき
- ◆ 吐き気があり、水分・食事がほとんどとれない日が続くとき
- ◆ 下痢、便秘が続くとき
- ◆ 体を起こすこともできないほどの強いだるさが続くとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆ 四国がんセンターの連絡先 ◆

【平日】 8:30~17:15
四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】 13:00~17:00
四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112



放射性リガンド療法（プルヴィクト）を受けられる方へ